



士会だより



「第35回兵庫県理学療法学会」

巻頭言

p. 2-3

兵庫県学会大会

p. 3-6

理学療法の日イベント

p. 7

各部だより

p. 8-13

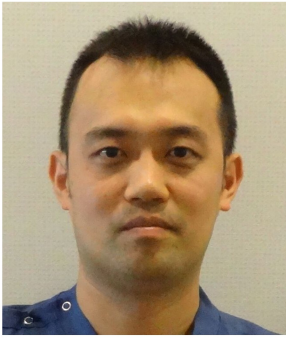
会長行動録

p. 14-15

数珠繋ぎ

p. 16

巻頭言



「新たな地域医療構想と兵庫県理学療法士会

一般社団法人兵庫県理学療法士会

理事 岩田 健太郎

兵庫県理学療法士会の皆様、日頃からの温かなご支援と尽力に心より感謝申し上げます。今年も皆様と共にさまざまな取り組みを進めてまいりましたが、とりわけ若い会員の皆様にとって、県士会活動が新たな希望や挑戦の場となることを心から願っています。

「PTは余る」という声を耳にすることもあります。職場や周囲の状況を見ると、日々の業務が忙しく、果たして本当にそうなのかと感じる場面も多々あります。2023年の「骨太の方針」において、国は急性期病床での早期リハビリテーションの推進に力を入れる方針を示しました。これは、介護人材の不足が深刻化する中で「リハビリテーションによって介護が必要な方を減らす」という大きな期待が寄せられているからに他なりません。これにより、リハビリテーションの重要性がますます高まり、私たちが果たす役割は一段と重みを増していると言えるでしょう。

2024年の診療報酬改定では、新たにリハ栄養口腔加算が設けられ、急性期から365日リハビリを行う時代が本格的に始まろうとしています。さらに医療介護連携の推進が主要政策になったことから、急性期から回復期、さらには生活期まで一貫してリハビリテーションを提供する体制が整い、医療・介護の連携が一層促進されることでしょう。特に若い皆様にとっては、この流れの中で、自分の力を存分に発揮できる新たなフィールドが広がっています。さらに、兵庫県においても地域特性を活かした取り組みが進められており、県士会としても間瀬会長のリーダーシップのもと、県からの助成金を活用して「マルチモビディティ事業」による人材育成を推進しています。額としては小さくとも、リハビリテーションの強化が県の方針として打ち出されたことは、私たちにとって非常に大きな意義を持っています。

私たちにとって、この動きは大きなチャンスです。この政策の追い風を受け、急性期リハビリを強化することで、急性期での介入率が向上し、さらに急性期退院後にリハビリを継続できなかった患者に対する退院支援が充実します。その結果、回復期や生活期で継続的にリハビリを受ける患者が大幅に増加し、介護が必要な方の減少を実現できるでしょう。これから、すべての領域でリハビリ職の職域が広がっていくでしょう。理学療法士の活躍の場は一層拡大し、皆様が新たな目標に向かって挑戦できる機会も増えていくことと思います。

2024年9月には厚生労働省において「新たな地域医療構想」に関する議論が始まりました。新しく到来する時代に対応できる医療体制を作るために不可欠な変革プロセスとしてとらえ、積極的に社会的要請に応えていくことこそ、今後のリハビリテーションの存続発展には不可欠だと考えられます。今後も兵庫県理学療法士会として、皆様と力を合わせ、県民が住む場所に関わらず、必要なりハビリテーションを受けられる社会を目指し、地域に貢献してまいります。一人ひとりの熱意と行動力で、理学療法をさらに広げていきましょう。

第35回兵庫県理学療法学会 開催

2024年9月15日(日)、「視野を広げる、視座を高めるーマルチモビディティを時代を見据えてー」のテーマのもと、アクリエひめじにて開催されました。「視野を広げる」とは、今の自分が持つ知識や知見が全てではないと気づき、多領域全体を見渡していくことで、一部分に囚われるのではなく全体を見通して別の観点から本質を見出していく視る力。もう一つの「視座を高める」とは、今の自分よりも高い視点から物事を捉えている先輩や上司の立場なら何が考えられるか、より俯瞰できる領域を広くし本質を見抜くことができる力、とのことです。

マルチモビディティ時代を見据えて、私たち理学療法士に今できることはなにか、求められていることは何なのか、それらの疑問を考える一日となりました。学会の様子を一部抜粋してご報告させていただきます。



【大会長基調講演】

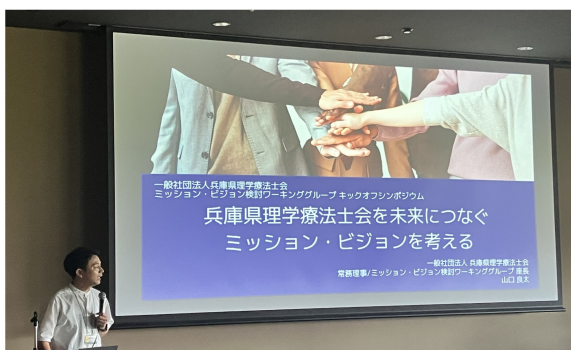
「視野を広げる、視座を高めるーマルチモビディティを時代を見据えてー」

大会長の立石 大樹先生(ひめじ地域支援リハビリ訪問看護ステーション)より、大会長に懸ける想いをお話して頂きました。自分が社会のためや目の前にいる利用者の方にはなんなのかを考えたときに、よりよい社会を実現していくためには理学療法の価値を高めることではないかと考える。その中で、理学療法を通じて得た恩恵として、ロジカルシンキングやPDCAサイクル等の論理的な思考展開を通して、真実の追及ができることになったことが挙げられます。これにより、その方が抱えている悩みや問題を解決するために必要な情報を集め、アプローチしていくことができるようになりました。自分だけでなく、患者、スタッフ、他部署、患者の家族など、相手や社会からみても良いという三方良しの関係を作ることで理学療法の価値が高まります。また、他者を思いやれる優しい社会をつくることで理学療法の価値は高まりやすいのではないかとのことでした。



【ミッション・ビジョン検討ワーキンググループ キックオフシンポジウム】

「兵庫県理学療法士会を未来につなぐミッション・ビジョンを考える」と題し、兵庫県理学療法士会会長 間瀬 教史先生(甲南女子大学)、常務理事 山口 良太先生(株式会社アールイーコンセプト)にご講演頂きました。この度、兵庫県理学療法士会では会員が活動する意義を感じ、今後も「ミッション」・「ビジョン」の趣旨に沿った判断ができるよう、それらを明言化し、未来につないでいく必要があると考えております。全ての会員が腑に落ち、それらを共有できるよう会員の皆様からご意見が必要です。そこで、本年度よりワーキンググループを設置することとなり、そのキックオフとして今回のシンポジウムが開催されました。皆様、兵庫県理学療法士会の「定款」は読まれたことがありますでしょうか。当会の「目的」などが明記されていますので、是非ご一読頂ければと思います。今回の講演ではディスカッション形式が取り入れられており、様々な世代の先生方が「本会に期待すること」「本会が社会の課題に対して寄与できる強みは」などの議題にご自身の意見を積極的に発信されていたように思います。WGの参加メンバーも引き続き、募集中ですのでご興味ある先生方は是非お願い致します。



【特別講演】

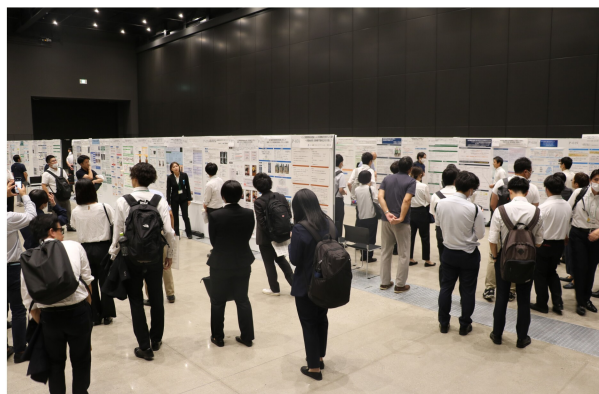
「マルチモビディティ時代の理学療法～疾病構造の変化に対応できるPTになるために～」

特別講演では、高橋 哲也先生(順天堂大学)にご講演いただきました。高齢者人口は増え続けるが人口は減少、労働力が不足し、社会保障費が増額し一人の負担が増えてきます。この日本が抱える人口オナーズが大問題となっているため、従来の定義にある高齢者を社会の担い手として捉える必要がありますが、これまでに体験したことのないような問題に対して、PTは自分たちがなにをしなければならないのか、社会にどう貢献しないといけないのかを考えることが求められています。興味深いのは、日本の76歳は世界の65歳と同等というデータがあり、意欲のある人が年齢・性別・障害に関わらず活躍できる社会をつくっていくことが、理学療法士にできる最大の使命となっています。



【災害リハビリテーションシンポジウム】「～はじめての支援～」

中谷 知生先生(宝塚リハビリテーション病院)、黒部 正孝先生(神戸リハビリテーション衛生専門学校)、深津 陽子先生(神戸市立いぶき明生支援学校)、伊藤 翼先生(神戸市立医療センター中央市民病院)にご講演頂きました。先生方はこの度、2024年1月1日に起こった能登半島地震において、兵庫JRATからの派遣として実際に支援に参加されました。今回のシンポジウムで発表して頂いた先生方も被災地での支援活動をするのが初めてであり、戸惑いや不安があったと率直な感想を述べられていました。災害リハビリテーションには興味はあるが、具体的にどのように活動すれば良いのか分からないと感じている理学療法士の先生方も多いのではないのでしょうか。先生方は、それぞれ違う時期に被災地に派遣されており、時期毎の違いや戸惑ったこと、向こうでの注意点など、実体験を通じた具体的なお話もあり、災害リハビリテーションの難しさ、重要性を痛感しました。現地に行かれた先生方から直接お話しを聞ける機会も少なく、質疑応答では多くの質問が飛び交っていたように思います。今回のシンポジウムを通して災害支援の理解を深めるうえでとても貴重なお話を聞くことができました。



【ハンズオンセミナー】

昨年の学会同様ハンズオンセミナーⅠ～Ⅲが開催されました。Ⅰ. 中谷 知生先生による「脳卒中片麻痺者の歩行トレーニング」、Ⅱ. 澳 昂佑先生による「運動器エコー」、そしてⅢ. 辻下 守弘先生による「定量的脳波解析の測定と解析」と、それぞれ違った角度からの講演であり、先生から直接ご教授を頂ける貴重な機会となりました。本学会でも参加希望者が大変多く、立ち見の先生方も多かった印象を受けました。どれもとても活気のあるセミナーとなっており、具体的な訓練方法、具体的な使用方法など基礎からご教授頂ける内容となっていましたので、新人の先生や違う分野で働かれている先生も非常に理解しやすかったのではないかと感じました。



【大会長コメント】

第35回兵庫県理学療法学術大会にご参加頂き誠にありがとうございました。関係者含め約120名以上の方が携わり盛会に終えることができました。今学会は県学会として初めてアーカイブ配信を行いました。「兵庫県の理学療法は面白い！」を全国に発信し、理学療法発展の火付け役を担えたかと思えます。県学会は皆様にとって一番身近な学会です。また、日本理学療学会連合のように1つの領域だけではなく、多領域を一同に学ぶ機会が得られる学会でもあります。「マルチモビディティ」というテーマは多領域を学ぶとともに、これからの時流に乗ったテーマとして設定しました。皆様の視野が広がり、視座が高まることで理学療法の価値が高まり優しさが溢れた社会に寄与できることを切に願います。

立石 大樹(ひめじ地域支援リハビリ訪問看護ステーション)

広報部

筒井 章悟(兵庫しあわせ訪問看護ステーション)

濱田 大介(東灘しあわせ訪問看護ステーション)

看護リハビリテーション学部
理学療法学科

女性だから、できるケアがある。
女子大学で、女性のための理学療法を学び、リーダーシップがとれる理学療法士へ。

甲南女子大学
KANSAI WOMEN'S UNIVERSITY
〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

理学療法学科公式サイト
理学療法学科公式 Instagram

創立51年の歴史を持つ医療の総合教育校

- 診療放射線科
- 臨床工学科
- 視能訓練士科
- 理学療法士科
- 作業療法士科
- 言語聴覚士科
- 歯科衛生士科
- 臨床工学専攻科

Since 1973 医療法人社団 慈恵会
KCC 神戸総合医療専門学校

〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7丁目1番21
神戸総合医療 検索 スマートフォンはコチラ

お問い合わせはコチラ TEL 078-795-8000(代表) HP <https://www.kobecc.ac.jp>

令和6年度 理学療法の日イベント

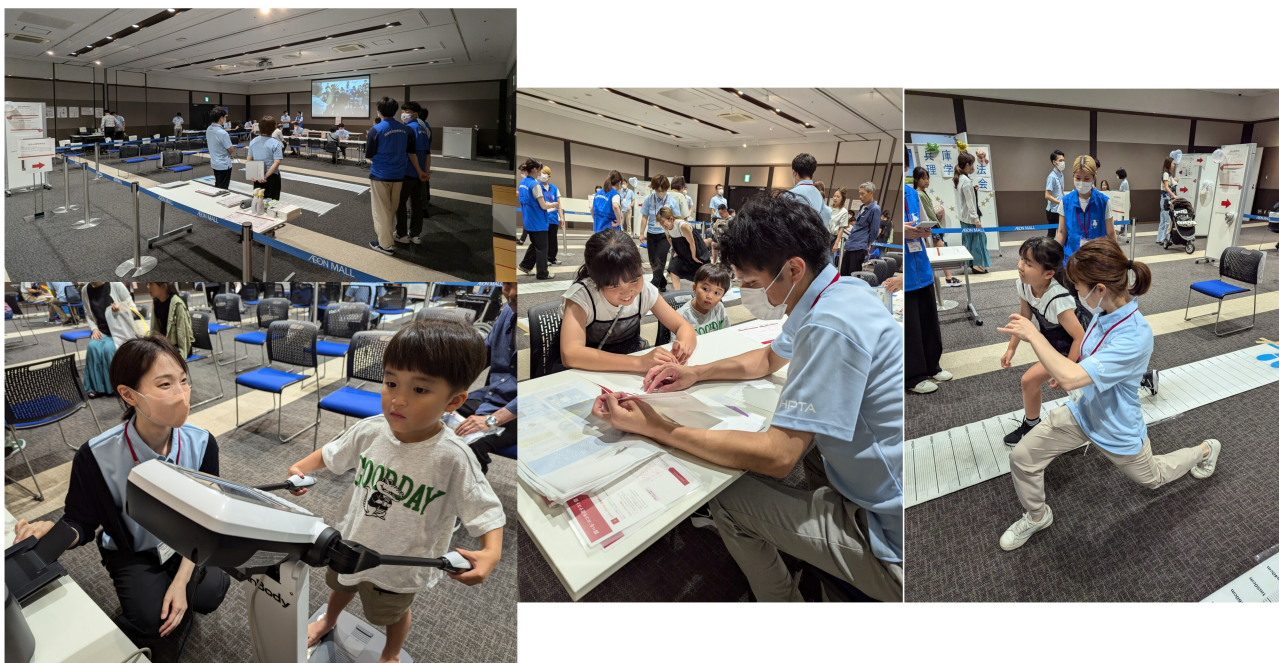
7月14日(日)に理学療法の日全国一斉イベントとして「理学療法士による筋肉・体脂肪チェック」を神戸市兵庫区にあるイオンモール神戸南にて開催しました。当日は「体組成測定」「ロコモティブシンドローム(ロコモ)度テスト」を行い、測定結果の説明、運動提案、理学療法士の役割・活動の啓発を「理学療法士ガイド」を使用し行いました。参加層は高齢者から子供連れまでと幅広く体組成計測定128名、ロコモ度テスト104名の計232名の方が参加されました。

会場設営にあたり、ボランティア学生の方が中心となり会場の装飾実施やJPTAの理学療法士紹介動画を常時上映したりと明るい雰囲気での啓発活動が行えました。また、理学療法ハンドブックを10種類程設置し案内すると疾患に対しての質問をされる方や多数持ち帰られる方がおり、理学療法士が生活習慣病やマルチモビディティーに対して介入できる発信が行えました。参加者の中で高校生のお子様がいる家族様がおられ、理学療法士に興味を持たれたので測定後にボランティアで参加していた学生や養成校講師と話す機会もありました。

参加者からは「病院以外でも理学療法士に会う機会が増えてきたので改めて知れてよかった」「健康や運動に関して相談できてよかった。定期的にしてほしい」「子供にリハビリの仕事を知ってもらえて将来の選択肢が増えた」などの声を頂き、効果的な運営ができたのではないかと思います。

今回のイベントを開催するにあたり、土会事務局、健康増進部関係者、啓発部、甲南女子大学学生様、神戸学院大学学生様、イオンモール神戸南様の協力があり、無事に運営が出来たことを感謝いたします。来年度よりこの事業が啓発部へ移行となりますが、今後も職能団体として県民の健康増進に関わっていきたいと思います。

健康増進部部長 松下 和樹(日の出医療福祉グループ 老健サンライズ)



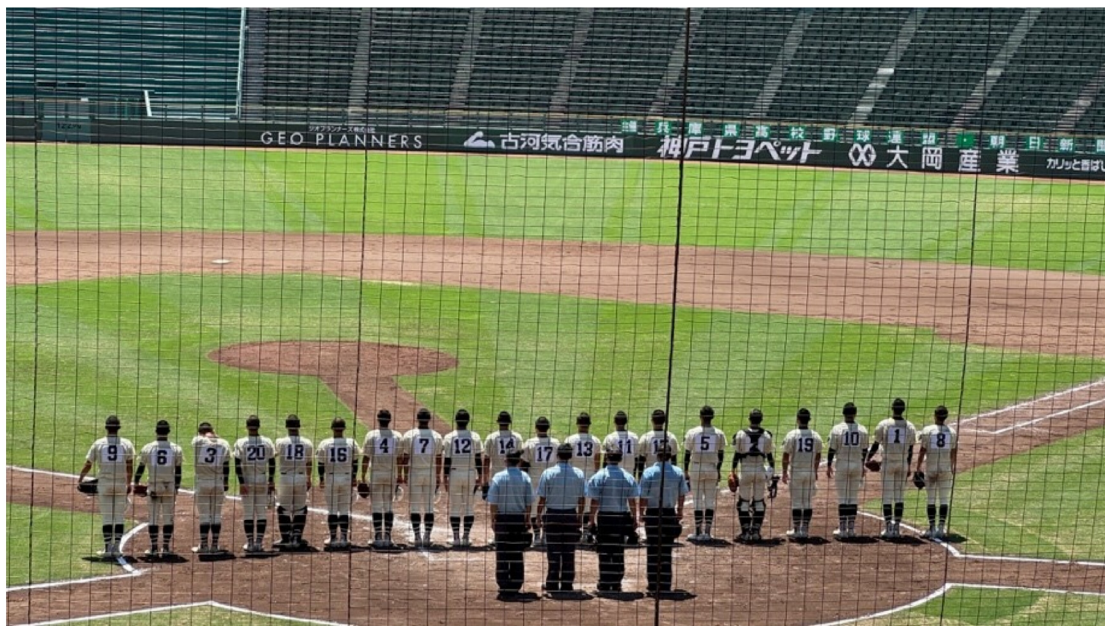
各部だより

スポーツ活動支援部

第106回全国高校野球選手権兵庫大会メディカルサポート

2024年7月6日(土)より第106回全国高校野球選手権兵庫大会が開催され、準々決勝以降の7試合においてメディカルサポートを行いました。休養日や予備日を含む8日間で35名が参加し、今回も初参加の方に多く応募して頂きました。サポート内容は主に投手のアイシングや応急処置ですが、無事に大きな怪我や重度の熱中症対応もなく、報徳学園の優勝をもって幕を閉じました。本年は10年に一度の酷暑とされ、大会期間中も厳しい暑さが続きました。ですが、ここ数年で熱中症対策への意識が高まっており、今大会では熱中症様症状者が少なく、各チームや各選手が十分に予防できていたように感じます。今大会も参加させて頂き、毎年変化する環境や競技ルールなどを考慮しながら、発生し得る障害等に適切な対応が行えるよう、今後も応急処置や一次救命の能力、スキルの獲得または維持することが我々の課題であると考えます。

佃 美智留



【参加者の感想】

第106回全国高等学校野球選手権大会兵庫大会のメディカルサポートに参加させていただきました。現場経験が初めてで、脳震盪や熱中症の対策など普段の臨床では対応しない事例に対して不安がありました。実際に頭部死球の対応をする機会があり、先生方のご指導のもと脳震盪のチェック項目など脳震盪の対応方法を教えていただきました。メディカルサポートに参加することで、普段臨床で経験できない現場の緊張感など感じる事ができ、貴重な経験ができたと思います。今後は、普段の臨床で対応しない事例などの知識を増やし迅速に対応できるようにしていきたいと思ひます。

伊藤 大那(やまがみ整形外科)

～柔道班勉強会活動報告「スポーツ傷害における膝関節の診方」～

スポーツ活動支援部では今年開催されませんでしたでしたが10月に柔道大会の救護活動を予定しておりました。その救護活動でも活用できる知識を共有する機会として、この度の研修会を企画いたしました。研修会は「スポーツ傷害の膝関節の診方」と題して、8月23日に松本病院の病院長である田邊 誠医師を招いて、同院リハビリテーション室をお借りして開催いたしました。参加者は21名(スポーツ活動支援部員含む)と多数の先生方と実技を交えつつ、情報の共有を行うことができました。柔道競技に関わらず、膝関節の診方を医師の目線からお話頂き、診察時の触れ方からストレステストまで丁寧にご教授頂きました。通常の理学療法士業務では得難い超急性期の診察場面をイメージでき、他の競技の救護活動でも活かせる視点が得られた貴重な機会であったと思います。

河野 邦人(松本病院)



【参加者の感想】

今回の勉強会ではスポーツにおける膝関節の外傷・障害の評価の仕方を、対面にて実技を交えて教えて頂きとても勉強になりました。スポーツ現場だけではなく実際の臨床でも役立つ評価方法や膝関節の診方を学びました。今回の勉強会で学んだ知識を業務に活かせるように自主学習を重ねてスキルアップしていきたいと感じました。

医療法人社団松本会 松本病院

医療で社会をつなぐ「医療社会人」を目指す

宝塚医療大学
TUMH
TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL AND HEALTH CARE

保健医療学部
理学療法学科 柔道整復学科 鍼灸学科 口腔保健学科
和歌山保健医療学部
リハビリテーション学科 看護学科
観光学部
観光学科 2024年4月開設

0120-00-1239

解き放て、
医の力

実践的なIPEで、強い医療人へ

兵庫医科大学は、医・薬・看護・リハビリテーションの4学部を擁する医療系総合大学。医療現場を想定したIPE(多職種連携教育)を導入し、学生が互いに学び、実践力を高める。実社会で活躍する医療人を育成します。

EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり

医学部 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部

H 兵庫医科大学

スポーツ活動支援部・中播磨支部主催 スポーツ理学療法講習会 「スポーツ現場における頭頸部外傷の救急対応と アスレティックリハビリテーション」

2024年9月28日(土)、スポーツ活動支援部・中播磨支部共催 スポーツ理学療法講習会が、姫路市の段医院にて開催されました。全7回中6回目となる今回は、松本病院の河野 邦人先生による頭頸部外傷発生時の対応について、解剖学からスポーツ現場を想定したネックカラーやバックボードの使用方法など実技も多く取り入れた幅広い内容でした。今年度から対面形式での開催が再開でき、より参加者の方々の表情が窺え、良い意見交換の場にもなったと思います。

三星 健吾(兵庫県立リハビリテーション中央病院)



【参加者の感想】

今回の研修は特に頭頸部外傷(脳震盪・頸髄損傷疑い)受傷時の緊急対応について多く時間が割かれ、バックボードを使用しての搬送手技についての実技を行いました。私自身バックボードを使用しての搬送について、以前にオンラインでの研修を受けたことはありましたが、ログロールやネックカラーの装着、体幹固定の実技を行うことは初めてで、手技を誤ることで生命に関わったり、重篤な後遺症を来す可能性があるため、特に緊張感を持って取り組みました。スポーツ中の脳振盪や頸髄損傷などの事故は、年代やスポーツの種類に関わらず発生する可能性があるため、講義で実技を行うことができ、今後現場活動を行う上での糧になると思います。河野先生は再三「研修面白くないでしょ？」と自虐的にお話しされていましたが、現場活動における事前準備の心得や、所々に豆知識を交えた講義で大変意義のある研修となりました。ありがとうございました。

岡田 祥弥(姫路赤十字病院)

スポーツ活動支援部のサポートには日頃スポーツ選手に関わる事のない病院、介護施設勤務の理学療法士も多く参加していただいています。スポーツ活動を支援するサポートスタッフに興味のある方は、QRコードまたは兵庫県理学療法士会HPにアップされる「現場活動のお知らせ」、「勉強会のお知らせ」に是非お申込み下さい。皆さんとスポーツ活動のサポートができることを楽しみにしております。

【申し込み先】スポーツ活動支援部 中西 拓也
e-mail ; supokatsu2008@gmail.com



各部だより

災害対策部

JIMTEF災害医療研修に参加して

近年、能登半島地震など多くの災害に見舞われる中で、医療従事者として災害にどのように関わっていけるかが問われているように思います。そして、そう遠くない未来に南海トラフ地震が発生するだろうといわれている中で、災害に対する知識が必要だと日々感じています。

今回、第17回JIMTEF災害医療研修ベーシックコースに参加させていただいたことで、災害に対する知識を包括的にかつ、詳しく学習することができたように思います。中でも災害時のコミュニケーションと「スフィアプロジェクト」について興味を持ちました。

コミュニケーションでは、伝える相手はどんな人か、その人は何を必要としているか、その人は何故それを必要としているか、その情報を正しく伝えられる手段があるかなど多角的な視点が必要です。例えば、OKサイン(親指と人差し指をくっつける)でも地域によっては侮辱的な意味であったり、白人至上主義を示すサインであったりします。そのため、地域や慣習等を知ることも災害時のコミュニケーションにおいて重要です。

「スフィアプロジェクト」は1994年のルワンダ大虐殺を契機として作られましたが、ハンドブック作成に至るまで4年の歳月を必要とし、その後も40か国の190もの機関が参加し改訂を行い、世界共通のルールとして「尊厳ある生活への権利」「人道支援を受ける権利」「保護と安全への権利」を明確化したものとなります。「スフィアプロジェクト」を通して、国際的な動向についての理解を深めることが出来たように思います。

災害に対してどう行動していくべきなのか、また、違った視点で災害について学ぶことが出来ました。ビスマルクの格言「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」が紹介されていましたが、災害にあってから対策するのではなく、過去の災害から出来ることを考えていくこと対策していくことが大切だと今回の学習を通じて感じました。この度は、貴重な学習の機会を頂きありがとうございました。

伊藤 颯仁(西播磨支部災害対策担当者)



医療・福祉の仕事を通じて誰かの力になりたい。

その夢を叶える学校です。

神戸医療福祉専門学校中央校
【介護福祉士科】 【鍼灸科】 【精神保健福祉士科】
〒650-0015 神戸市中央区東雲町2丁目番5号
【URL】 <https://www.kmwc.ac.jp>

神戸医療福祉専門学校三田校
【理学療法士科】 【作業療法士科】 【言語聴覚士科】
【医療秘書科】 【高度医療技術科】
【医療器具科】 【整形科】 【整形外科1年制】
〒669-1313 三田市橋本501-85
【URL】 <https://www.kmwc.ac.jp>

姫路医療専門学校
【理学療法士科】 【言語聴覚士科】 【臨床工学技士科】
【看護学専攻科】
〒670-0927 姫路市駅前町27番2号
【URL】 <https://www.hmc.ac.jp>



10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む
総合リハビリテーション学部

理学療法学科
・理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科
・作業療法士国家試験受験資格

総合リハビリテーション学研究科
大学院 修士課程・博士後期課程

神戸学院大学 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
有瀬キャンパス TEL (078) 974-1551 (代表)
KOBE GAKUIN UNIVERSITY

各部だより

保健福祉部

福祉用具研修

保健福祉部では、毎年、テーマを絞って福祉用具研修を実施しています。昨年度は、理学療法士の正木 健一先生(介護ショップ蓮)を講師としてお招きし、ベッド周辺用具と車いす関連用具をテーマに実施しました。電動ベッド・マットレス・ピローが姿勢や動作に及ぼす影響や安楽な姿勢の作り方、シートを使用した移動介助方法、車いすの姿勢調整法などを学びました。実際にたくさんの用具を体験しながら、基本的な用具の使用法や秘訣(使用する際の工夫)を現場経験豊富な正木先生から教えていただきました。受講者は新人からベテランまで幅広い世代の方々に、所属も病院・施設・在宅など様々でしたが、それぞれに新たな学びがあった様子です。福祉用具は生活機能に大きな影響を及ぼす因子です。理学療法士にとってベッド周辺用具や車いすは大変身近なものでありながら、自ら利用者体験する機会はそれほど多くないと思います。マットレスやピローなどの用具については、寝たときに感じる身体のズレや接地面、動作への影響などは実際に体験しないとわかりません。実体験を通して学ぶことで、現場での効果的な使用や提案につながります。受講者の方からは、「すべての理学療法士が学ぶべき内容」という感想もいただきました。



今年度も正木先生に歩行補助用具と移乗補助用具をテーマに、選定の考え方や活用の工夫などについてお教えいただき、次年度はまた別の環境調整をテーマに計画を継続していきます。このように保健福祉部では、明日の現場で活かすことができる内容の研修をたくさん企画しており、研修の中では日々の困りごとなども相談しやすいように工夫しておりますので、今後の研修についてもぜひご参加ください。

畑井 貴弘(丹波市国民健康保険青垣診療所)

各部だより

こども生涯支援部

福祉機器展示会

令和6年9月21日(土)、兵庫県下の肢体不自由児(者)、ご家族、関連職種(医療・福祉関係者、学校関係者、その他)、理学療法士会会員、養成校学生を対象とした福祉機器展示会を開催しました。計11社の関係業者のご協力、小野市教育委員会の後援のもと、会場として小野市立小野特別支援学校をお借りし行ったところ、200人近くの方にお越しいただきました。

今回の展示会では、車椅子・バギー・歩行器等の移動支援機器だけでなく兵庫県作業療法士会、兵庫県言語聴覚士会のご協力もあり、コミュニケーションエイド等の福祉機器や玩具等の展示・体験会も行うことができ大変好評でした。アンケートにおいても「製品の試乗や体験が出来る事」や「製品の最新情報を得られる事が良かった」等、満足頂けている声が多かったです。

次年度以降も展示品の幅を広げてより多くの来場者の方にご満足いただけるよう、企画していきたいと考えています。今回、日程等でご参加が叶わなかった方も次年度、是非お越し頂けたらと思います。

津吉 広太



リハビリ訪問看護ステーション菅
アスリートサポート部
ソーシャルメディア広報部

Steps

想いをカタチに

予防医療部
ウイメンズヘルス部
ICTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754
〒652-0033
神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

神戸西事務所
〒655-0013
神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

～精鋭の教員陣による人間教育～

リハビリテーション学部 理学療法学科

神戸国際大学
リハビリテーション学部/経済学部
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6
TEL:078-845-3111(代表) FAX:078-845-3200

会長行動録

- 6月20日 常務理事・三役会出席
- 6月21日 理事会出席
- 6月22日 近畿ブロック理学療法士協議会 士会長・事務局長会議出席
- 6月25日 神戸新聞社の取材
「マルチモビディティ患者に対応するためのリハビリ専門の養成」に関する会議出席
田中まさし後援会会議出席
- 6月30日 令和6年度定時総会出席
- 6月30日 新人セミナー講演
- 6月30日 大串議員、加田議員と会談
- 7月02日 公明党政策要望懇談会出席
- 7月08日 事務局長、各理事と相談
- 7月09日 事務局長、各理事と相談
斎藤協会等と相談
兵庫医科大学との包括協定に関する会議に出席
理事会出席
- 7月10日 事務局長、各理事と相談
神戸新聞掲載広告を木澤・岩田理事と相談
兵庫県リハ3士会合同地域支援推進協議会幹事会出席
- 7月11日 神戸新聞社と相談
- 7月14日 神戸市立医療センター中央市民病院 開設100周年記念式典・記念講演会出席
- 7月17日 白 承豪弁護士事務所訪問
- 7月18日 常務理事・三役会出席
- 7月19日 理事会出席
- 7月26日 拡大理事会資料作成
- 7月30日 拡大理事会出席
- 8月05日 職能部政策研修会参加
- 8月06日 淡路地区田中参議院議員訪問 職能部政策研修会参加
- 8月11日 石川連盟会長と相談
- 8月16日 兵庫県庁医務課訪問時資料作成
- 8月20日 兵庫県庁医務課訪問事前会議出席
兵庫県庁医務課訪問 山本事務局長、小森副会長、木澤副会長、山口理事と相談
- 8月21日 兵庫県リハ3士会合同地域支援推進協議会、県庁訪問事前打ち合わせ会議代表幹事として会議に出席
- 8月26日 芦屋市議会議員田原俊彦議員、西村まさと議員と面会
兵庫県リハ3士会合同地域支援推進協議会、県庁訪問
兵庫県OT士会長尾会長、兵庫県ST士会田中会長と面談
公明党国政報告会出席 公明党国政報告会に出席した
- 8月27日 CURE-KOBE理事会出席
- 8月29日 神戸圏域地域医療構想調整会議 地域包括ケア推進部会出席(第10回)
- 9月03日 石川連盟会長と相談
- 9月05日 兵庫県議会自民党予算に対する意見交換会出席 石川連盟会長と相談
- 9月06日 大塚県議会議員と相談 芦屋市議会西村議員と相談
- 9月10日 日本理学療法士協会診療報酬会議出席
- 9月12日 風早、北浜、橘、伊藤県議会議員と会談

9月14日 「令和6年度診療報酬、介護報酬改定への対応 -リハビリテーション、栄養管理及び口腔管理の連携・推進-」の事前準備
ミッション・ビジョン検討ワーキンググループ キックオフシンポジウム打ち合わせ会議出席

9月15日 兵庫県理学療法学術大会講演

9月16日 「multi-morbidity(マルチモビディティ)患者のためのリハ専門職の養成」事業研修会事前準備

9月17日 「multi-morbidity(マルチモビディティ)患者のためのリハ専門職の養成」事業研修会打ち合わせ会議出席

9月18日 兵庫県リハ3士会合同地域支援推進協議会幹事会出席

9月19日 常務理事・三役会出席

9月20日 理事会出席
兵庫医科大学内部評価委員会出席
「multi-morbidity(マルチモビディティ)患者のためのリハ専門職の養成」事業研修会会場設営

9月21日 「multi-morbidity(マルチモビディティ)患者のためのリハ専門職の養成」事業研修会事前準備

9月22日 「multi-morbidity(マルチモビディティ)患者のためのリハ専門職の養成」事業研修会実施

9月23日 「multi-morbidity(マルチモビディティ)患者のためのリハ専門職の養成」事業研修会講演

9月30日 兵庫県リハ3士会合同地域支援推進協議会研修会挨拶

10月01日 大串議員との協力体制について連盟会長と相談

10月02日 兵庫県士会倫理に関する研修会に出席
兵庫県理学療法士連盟リハビリテーションの未来を考える会出席について関係役員と相談

10月10日 久きぞう講演会出席

10月13日 「multi-morbidity(マルチモビディティ)患者のためのリハ専門職の養成」事業研修会循環器コース出席

10月15日 水田理事と兵庫県理学療法士連盟リハビリテーションの未来を考える会について協議

10月16日 常務理事・三役会出席

10月17日 兵庫県理学療法士連盟リハビリテーションの未来を考える会出席

10月18日 赤羽議員政策報告会出席
赤羽議員講演会出席
理事会出席

10月20日 日本理学療法士協会組織運営協議会出席

10月21日 中野議員講演会出席

10月22日 田中まさし全国後援会会議出席
兵庫県医務課よりの質問事項に対する資料作成

10月25日 公立八鹿病院訪問
但馬長寿の里訪問

10月26日 全国在宅リハビリテーションを考える会公演
佐用共立病院訪問

10月30日 兵庫県医務課よりの質問事項に対する資料作成

10月31日 伊丹恒性脳神経外科病院訪問

11月05日 北播ブロック説明会資料作成

11月06日 北播ブロック田中まさし全国後援会入会説明会にて説明

11月09日 近畿ブロック士会長会議出席

兵庫県で
活躍する
理学療法士
～数珠つなぎ～

兵庫県立
リハビリテーション中央病院
松本 恵実氏

略歴 & 職歴

2012年3月
行岡リハビリテーション専門学校
理学療法学科 卒業

2012年4月～
兵庫県立リハビリテーション中央病院

資格

認定理学療法士（運動器）
JATI-ATI

モットー

凡事徹底

趣味

スポーツ観戦、ランニング



入職してから脳血管、整形、切断、脊損などの疾患、様々な背景を持った患者さんを担当し、学会発表なども経験させていただきました。病院勤務と並行して、スポーツ現場とご縁があり、サッカーやバスケの育成年代のチーム帯も経験しました。2021年度にスポーツ医学診療センターが開設し、現在はスポーツ整形を中心とした理学療法に従事しています。現場活動も継続しており、臨床と違う緊張感を感じながら、応急処置など病院では経験できないことも経験でき、いい刺激をもらっています。理学療法士の自分に何ができるか、何を必要とされているか、ベストな選択は何か…葛藤も多々あります。それぞれの経験が相互に活かされ、自分自身のスキルアップを実感しています。関わった患者・選手が活躍する姿にやりがいを感じ、モチベーションになっています。また、シッティングバレーには選手として試合に参加しており、様々な視点を作れる有意義な時間となっています。まだまだ手探り状態ですが、患者・選手たちに貢献できるように研鑽を続けたいと思います。

次は回復期、JICAボランティア、クリニックと幅広くご活躍され、昨年新しく開院した荻原記念病院に勤務する藤井貴志先生にお繋ぎします。

表紙写真

第35回兵庫県理学療法学会が、2024年9月15日に「視野を広げる、視座を高める—マルチメディアを時代を見据えて—」のテーマで開催されました。

写真は会場となったアクリエ姫路の様子です。

県士会だより 第205号
発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者／間 瀬 教 史
編集者／筒 井 章 悟

ホームページ

<http://hyogo-pt.or.jp/>



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地

〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階

TEL 078-367-7311